地域理想

経営に、地域資源を活かす。

地域のヒト・モノ・場所・つながり等の地域資源を経営に活かし、会社の成長と地域の個性づくりを同時に果たす経営者が登壇するカンファレンスです。

「地域課題」からではなく、ビジョンを地元に落とし込んだ「地域理想」を地域に溢れさせるべく、先輩経営者から経営と地域の未来について伺います。

2026 12月5日[土]

12:00▼17:00

参加無料

関西学院大学 神戸三田キャンパス Spark Base

地域資源を活かして事業を伸ばしてきた経営者の実践から学ぶ



ゆとなみ社 代表
湊 三次郎

「銭湯を残したいから、まちを面白くする。」

24 歳で京都の銭湯を継ぎ、いまや全国 10 軒の銭湯を受け継いで営む若き銭湯経営者。



ムサシ CDO
CALMA by Ryo Okamoto
岡本 亮

「会社の資源を地域に開くと、何が起こるか」

株式会社ムサシにアーティストとして参画。Direction と ART で企業と社会に価値を生みだす。



GREENJAM 代表理事
大原 智

「企業だけでは作れない景色を、地域とつくる」

伊丹で無料の野外フェスを立ち上げ、市民の手で関西最大級に育てたまちの仕掛け人。



みなと銀行 地域戦略部
河田 健人

「地域の挑戦に、銀行はどう伴走できるか。」

アトツギ向けアクセラレーター「SENJIN」を率い、地域の後継者の挑戦を支える銀行員



バンクライト 代表取締役
笹島 敦史

「銀行と組めば、地域の会社はもっと伸びる。」

「バンカーの仕事をもっとおもしろく」を掲げ、銀行と地域企業の連携を仕掛ける起業家。



マクアケ 執行役員
一社イヒ 共同代表理事
菊地 凌輔

「挑戦が生まれる瞬間には、いつも理想がある。」

Makuake で全国の挑戦を後押ししながら、イヒで地元三田の挑戦を仕掛ける二刀流。



東洋工作所 代表取締役
岩田 光正

「工場でナイトマーケットをひらく理由。」

職人歴18年の配管会社社長。工場のナイトマーケットや SNS で、採用と売上を伸ばした。



スタブロブックス 代表取締役
高橋 武男

「地元とは、応援されながら挑戦できる場所。」

故郷の加東市にＵターンし、ひとり出版社を立ち上げて地元の本をつくり続ける。



レック 代表取締役
高橋 洸

「生まれ育った三田から、新しい楽しみをつくる。」

三田を拠点にブライダル・温浴・宿泊などを営むレックの二代目。まちに新しい楽しみをつくる。

ポッドキャストで配信



Bogaki Studio 代表
品川女子学院 顧問
坊垣 佳奈

「理想がないと、課題は見えない。」

マクアケを共同創業しビジョンを重視した経営を実践、上場企業の社外取締役や、地方企業の顧問、学校経営にも関わる。



緑葉社 代表取締役
ムカシミライ 代表取締役
畑本 康介

「古民家を、次の担い手へつなぐ。」

龍野の城下町で 70 件以上の古民家物件を管理し、町並みを守りながら新たな賑わいを生み出す。

対象・申込

【対象】
経営者／後継者／新規事業担当者／支援機関／学生／金融機関／行政職員／どなたでも参加可能です。

【申込】
参加費無料／事前申込制
先着 100 名／こちらからお申し込みください→

主催：兵庫県阪神北県民局地域振興課／企画運営：一般社団法人イヒ／問合せ：ihi.local.ihi@gmail.com　090-7498-8876（イヒ寺井）／ローカル・ゼブラ創出支援セミナー

会社のビジョンを、一番身近な地域社会に落とし込んだ未来像。

地域理想とは

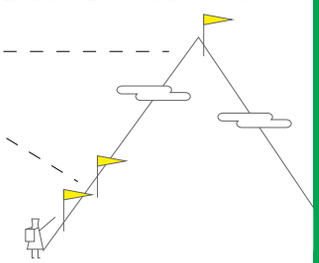
- ○ 地域課題ではなく、自社の意志と実現したい未来から生まれる
- ○ 地域貢献ではなく、自社の持続的な成長のために描く
- ○ 具体的な未来像を共有し、従業員・地域・取引先との共感と共創を生み出す
- ○ 理想と現状のギャップから、本当に取り組むべき課題を見定める指針となる

運営団体イヒの例

ビジョン ： 10年後に実現したい社会の姿
「変化への愛で満ちた社会」

地域理想 ： ビジョンを活動地域の三田に落とし込んだもの
「やってみたいが叶うまち」
やってみたいのはじめかた WS / やってみたいスクール

「日本で一番家庭食が豊かなまち」
こんびび / 毎月第一月曜日はカレーの日 / 旬の魚を食す



なぜ今？

人が採れない。続かない。熱意が育たない。

採用 **8.98倍**
従業員 300 人未満の大卒求人倍率
(5,000 人以上の企業は 0.34 倍)

定着 **52.0%**
従業員 5～29 人の事業所の大卒
3 年以内離職率

熱意 **8%**
仕事に熱意をもつ日本の従業員
(世界は 20%)

出典：リクルートワークス研究所 (2026 年)/ 厚生労働省 (2022 年 3 月)/Gallup(2026)/ 大伸社コミュニケーションデザイン (2026 年 2 月)

メリット

地域貢献ではなく、企業の成長のための手段です。

01 経営判断の明確化
実現したい未来から逆算し、
投資の優先順位が明確に

02 エンゲージメント向上
仕事の先にある未来が見え、
社員の主体性が生まれる

03 採用力・定着率の向上
目指す未来が伝わり、
共感する人材と出会える

04 新規事業・共創の創出
地域や企業との共創から、
新しい事業が広がる

05 地域との継続的な関係
一時的な接点を越え、
地域と続く関係が生まれる

06 ブランド力の向上
独自の未来像が個性になり、
選ばれる理由が増える

プログラム

12:00 **オープニング｜「地域理想とは。」** 企画運営団体：一般社団法人イヒ

12:10 **TALK 1｜「本業を守るために、本業の外へ出る」** ゆとなみ社 代表　湊 三次郎
銭湯を起点に、まちと本業がともに育つ可能性を語る。

12:45 **TALK 2｜「会社をひらいたら、人が集まった」** ムサシCDO / CALMA by Ryo Okamoto　岡本 亮
ON THE HILL や CALMA を通じ、企業の力が地域に生む変化を語る。

13:25 **TALK 3｜「ひとりの“やってみたい”に、会社の“できる”を」** GREENJAM 代表理事　大原 智
GREENJAM や坂ノ上音楽祭を通じ、地域の想いと企業の力が交わる可能性を語る。

14:10 **PANEL 1｜「地域理想は、経営になるのか」** 河田 健人／笹島 敦史／湊 三次郎／菊地 凌輔
地域への投資と本業・収益、資金調達、金融機関の見方

15:20 **PANEL 2｜「もし、自社が地域理想を掲げたら」** 岩田 光正／高橋 武男／高橋 洸／寺井俊裕 (ファシリテーター)
阪神北の経営者が、その場で地域理想を考える

16:20 **地域理想交流会** (~17:00)　登壇者／参加者
登壇者・経営者・金融機関・行政と直接話せる

事前配信

イベント当日に先駆けてポッドキャストを配信！

11/20(金) 配信開始

視聴はこちら

PODCAST 1
「企業が理想を掲げる意義とこれからの教育について」
坊垣 佳奈 Bogaki Studio 代表　品川女子学院　顧問
「Makuake」を共同創業し、数多くの新しい挑戦の誕生に立ち会ってきた坊垣佳奈さん。新しい提案が「今、困っていない」と退けられる理由、AI で誰もが同じ答えにたどり着く時代に、企業の意思と理想が差になるわけ。そして、社会の行く先を最も深く想像すべき「これからの教育」について語っていただきます。

PODCAST 2
「地域の個性と景色を守る事業経営とは」
畑本 康介 緑葉社　代表取締役 / ムカシミライ　代表取締役
兵庫県たつの市・龍野の城下町で、市民出資のまちづくり会社「緑葉社」を率いる畑本康介さん。古民家を再生して新しい担い手につなぎ、70 件以上の物件を預かってきました。「誰にでも売るわけではない」という判断の裏にある考え方とは。地域の個性と景色を守りながら、事業として続けていく経営について伺います。

概要・申込

日　　時：2026 年 12 月 5 日（土） 12:00～17:00
会　　場：関西学院大学神戸三田キャンパス　SparkBase
　　三田市学園 4 丁目 2 番
アクセス：神姫バス「関西学院前」バス停から徒歩 5 分
　　神姫バス「関西学院大学」バス停から徒歩 1 5 分
主　　催：兵庫県阪神北県民局地域振興課
企画運営：一般社団法人イヒ
　　令和 8 年度ローカル・ゼブラ創出支援事業

【対象】
経営者 / 後継者 / 新規事業担当者 / 支援機関 / 金融機関
行政職員 / 学生 / 地域の方等どなたでも参加いただけます。

【申込】
参加費無料 / 事前申込制
先着 100 名
こちらからお申込ください

地域のヒト・モノ・場所・つながり等の地域資源を経営に活かし、会社の成長と地域の個性づくりを同時に果たす経営者が登壇します


伊賀の銭湯を核に、界隈ごと楽しめるまちへ。


公園の宿泊施設跡を、食と文化の拠点に再生。


市民の手でつくる、入場無料の野外フェス。


配管工場を一夜ひらく、地域の夜市。


温泉と 2 万冊の本が出会う、三田の温浴施設。



「人」を軸に地域らしさを描く、ローカル誌。

企画運営：一般社団法人イヒ

三田市を拠点に、地元の同級生 3 人で設立。中小企業のブランディング・経営支援、上場企業の役員、NPO での活動と、それぞれの分野で働きながら、地域での活動を協働で行っています。ビジョンは「変化への愛で満ちた社会を」。行政からの受託事業や、関西学院大学での相談業務も担い、企業・行政・大学をつなぎながら、地域の理想を描き、形にする取り組みを進めています。

